

ユニセフ・シアター 「バレンタイン一揆」



チョコレートの原料、カカオ豆を、
どこで誰がつくっているのか、あなたは知っていますか？

ストーリー

日本の普通の女の子3人が、アフリカのガーナで出会ったのは、たくさんの子
どもたちがカカオ農園で働かされ、学
校に通うこともできない「児童労働」
という現実だった。



バレンタインデーに、フェアトレード
でつくられた、ほんとうに愛のある
チョコレートを、日本のみんなに選ん
でほしい。そんな想いを胸に、彼女た
ちは動き出した。



イベントの名は、「バレンタイン一揆」。
果たして、彼女たちの願いはみんなに
届くのか。



日時 2022年7月16日(土)

①10:30 ~ ②13:30 ~

会場 岩手教育会館 2F 多目的ホール

賛助会員募集

年1回、会費をいただき、岩手県ユニセフ協会の活動を
継続して支えていただく賛助会員制度です。会員のみな
さまには、ニュースやイベント案内をお届けしています。

一般会員 (個人ならどなたでも) 1口 / 5,000円

学生会員 (18才以上の学生) 1口 / 2,000円

団体会員 (団体・法人・企業) 1口 / 100,000円

集めています!

これらも
募金になります

- ・使用済み切手
- ・書き損じはがき
- ・外国コイン



※お持ちの方は、ご連絡ください。

～世界の子どもたちに想いをよせて～
第10回 **ユニセフ・ラブウォークinいわて**
思い思いのペースで歩いた汗が、ユニセフを通じて世界の
子どもたちの健康に役立てられるユニセフ・ラブウォーク。



開催日 2022年 **5月15日(日)**

会場 盛岡城跡公園広場 ※スタートゴール
～中津川河川敷散策コース5km・10km～

受付 8:45～ ※12:30ゴール解散予定

参加費 大人…**500円** 子ども(18歳未満)…**200円**
(共にユニセフ募金、保険の費用を含む)

ユニセフいわてハンド・イン・ハンド2021



募金総額
2022/1/31まで
54,550円

ご協力
ありがとう
ございました



恒例の街頭募金は出来ませんでした
がスマホやパソコンから募金し
ていただきました。ご協力ありがと
うございました。

ボランティア募集



ユニセフでは…
・募金活動
・学校などへの出前講座
・学習会・パネル展示
などをボランティアのみなさん
で行っています。あなたもぜひ
参加してみませんか？



岩手県ユニセフ協会ニュース No.54

unicef

Iwate Association for UNICEF

2022年2月

【発行】

岩手県ユニセフ協会

〒020-0690
岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail : sn.iunicef_iwate@todock.coop
ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/

子どもたちの命を守るためのご寄付にご協力ください

トンガ沖大規模噴火・津波緊急募金



2022年1月トンガの火山が激しく噴火しました。この噴火
により津波が発生し、トンガの首都や近隣国に押し寄せまし
た。火山灰で汚染されたために不足する飲料水や、衛生用品、
医薬品などを支援します。トンガではコロナ対策で国境が閉
鎖されていますが、ユニセフはトンガ政府と協力して子ども
たちや家族が必要としている支援を提供できるよう取り組ん
でいます。

フィリピン台風緊急募金



2021年12月超大型の台風22号がフィリピンを襲
いました。約86万4,000人の子どもが緊急支援を
必要としています。食料、水、医薬品、衣類、個
人用防護具、衛生キットなどの提供や、感染症の
予防・管理、妊婦と子どもの栄養不良の予防や治療、
子どもへの心理社会的支援や暴力からの保護など
に取り組んでいます。

シリア緊急募金



中東のシリアでは、紛争が開始してから10年を迎え、あまりにも
多くの子どもたちが犠牲を強いられ、子ども時代を奪われていま
す。この10年で600万人近い子どもが生まれ、平和や故郷を知ら
ずに育っています。新型コロナウイルス感染症によって、人々の
生活はさらに悪化し、シリア国内では80%近くが貧困に陥ってい
ます。シリア周辺の国には、今も250万人のシリア人の子どもが
難民として暮らしています。

緊急募金に
ご協力を
お願いします

《郵便局》(ゆうちょ銀行) 振替口座

振替口座 : 00190-5-31000 (窓口の場合 手数料免除)

口座名義 : 公益財団法人日本ユニセフ協会

通信欄に { トンガへの場合 「自然災害K1030」
フィリピンの場合 「自然災害K1030」
シリアの場合 「シリアK1030」 } と明記してください。
(明記がない場合は一般募金になります)

*岩手県ユニセフ協会にご連絡くだされば振込用紙をお送りいたします。

ユニセフ出前講座

学校や団体からの要請に応じ、ボランティアスタッフが出かけていき、「ユニセフ」を気軽に学べる講座をしています。
盛岡市立上田小学校、金ヶ崎町立永岡小学校、いわて生協にのへコープでのユニセフ出前講座の様子を紹介します。

2021.10.27



盛岡市立上田小学校 5年生

ユニセフは国際連合の機関であること、子どものために活動していることをお話しします。その次に、世界の子どもの状況。ユニセフの支援の内容を説明します。栄養が足りない、水道がない、病院が近くにない、蚊に刺されて発症する「マラリア」という病気のことなどを話します。



水道が無くて、遠くの池や川から水を汲んでいる子どもの話のあとは、水を運ぶ体験をします。5kgの水も重い。

こどもたちの感想より

- ☆子どもが「働く」と知って驚きました。ぼくは「手伝う」ことはするけれど、生活のために「働く」なんて。
- ☆家族のために一日8時間もかけて5kgの水を汲んでくるのはたいへんなことだと思います。「水くみ」のために学校に行けない子どもがいることも驚きました。水がめを持って歩くだけでもたいへんだったのに、長い距離、長い時間。DVDを見た時泣きそうになりました。
- ☆水がめはとても重く、あれを女の人が持って歩くことに驚きました。
- ☆世界では、5歳までに死んでしまう子どもがたくさんいることにびっくりしました。
- ☆自分が普通に生きていて幸せに生活していることに感謝します。
- ☆汚れた水を飲んで下痢をして、それが死の原因になるなんて。



「マラリア」を予防するための蚊帳に入る体験もします。この蚊帳には、日本企業のテクノロジーで、蚊帳の繊維に防虫効果を持たせています。

金ヶ崎町立永岡小学校 6年生

2021.10.29



水がめを運ぶ体験

こどもたちの感想より

- ☆アフリカなどの赤ちゃんは、栄養が足りなかったり、水や衛生が悪かったりして、命を失っていることを知りました。
- ☆水くみの仕事で学校に行けない子どもがいることもびっくりしました。
- ☆日本は蛇口をひねるだけで水を飲めるのが当たり前だと思っていたけれど、それは幸せなことなんだなと思いました。
- ☆世界には、5歳になる前に亡くなってしまう子どもがたくさんいることを知り、同じ地球に住んでいてもこんなに違うんだなと思いました。
- ☆栄養のある食べ物やワクチン、マラリアを防ぐ蚊帳をユニセフが支援していることがわかりました。



ユニセフの支援グッズを紹介しています。



「命のメジャー」で上腕を測ってみましょう。

2021.7.17



5組の親子18人参加

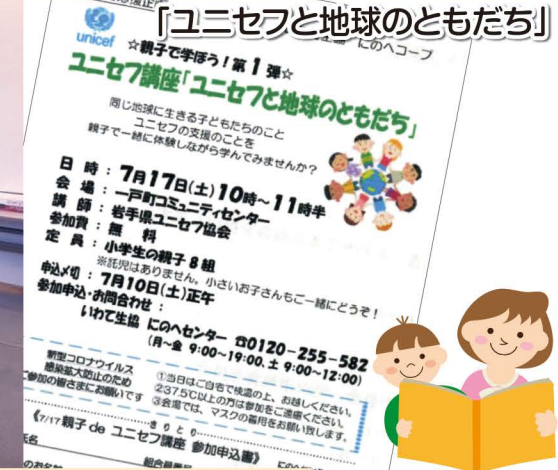


水がめ体験



命のメジャー計測体験

いわて生協 にのへコープ親子企画



参加者の感想より

- ☆蚊にさされて死んでしまうのが、かなしいなとおもいました。(小2)
- ☆日本ではきれいな水がすぐ手に入るけど、他の国では、かんたんにきれいな水が入ることができないことを知って、どこの国でもかんたんにきれいな水が入るような未来に協力したいと思いました。(小4)

(大人の感想)

☆クイズがあったり、蚊帳に入ったり、水がめを持ってみるなどの体験もあり、子どもたちと楽しく学ぶことができました。今の自分(小4)が当たり前だと思っていたけれど、とても恵まれていることを再認識することができ、これから大事に生活したいと思いました。子どもたちと一緒に話を聞くことができたのが良かったです。子どもたちはきっとまた来年になれば、受け止め方も変わってくると思うので、また機会があれば、親子で一緒に参加したいと思います。

ユニセフ出前講座は……

学校や団体からの要請に応じます。子どもでも大人でも年齢に合わせた内容で対応します。お気軽に岩手県ユニセフ協会にお問い合わせください。

仏像を彫るごとに貯めた募金をいただきました

岩手県ユニセフ協会 トピックス



宮古市にお住まいの宝来祐好様より、岩手県ユニセフ協会に募金をいただきました。宝来様は、木彫りの仏像を一体彫るごとに10円の募金を貯めてこられて、千体になったところでユニセフに一万円の募金をしてくださいました。世の中の水子供養のためにと彫り始めましたが、ユニセフのテレビCMを見て「世界の子どものために」との思いになったそうです。この仏像は「千体仏(せんたいぶつ)」と呼ばれ、山田町の瑞念寺に納められています。

岩手県ユニセフ協会 トピックス

「探究学習」でユニセフの事務所に来所しました



盛岡第一高等学校 1年
よこやま かずさ
横山和沙 様

横山様のレポートより

世界には、肺炎や下痢などの簡単に治すことのできる病気で命を落とす子どもが後を絶たない格差を感じました。格差をなくすための活動を各国も行って、日本の技術も活用されているそうです。50年ほど前に比べると格差も大幅に減少しているそうです。私たちも一人一人が行動することで改善できる力を持っていると思います。まずは世界の状況をよく知ることから始めることが必要だと思いました。